

2021年7月実績概要(メモ)

(2021. 8. 19)

(2021. 8. 25更新)

定修規模差等から品目によって生産の増減にバラつきあり。

1. 生産動向

イ) エチレン 485,000トン

前月比 +5.1% (+23,700トン)

前年同月比 ▲3.2% (▲15,800トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3%	-
定修要因等	+ 1.4%	▲ 2.9%
能力増減	-	-
稼働率変動	+ 0.4%	▲ 0.3%
生産増減率	+ 5.1%	▲ 3.2%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月93.2%* → 当月93.5% ← 前年同月93.8%

定修プラント：前月 2社2プラント → 当月 2社2プラント ← 前年同月 3社3プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増加のほか定修規模差等から、HDPE、PP、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、AN、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの14品目がプラス。LDPE、SBR、BRの3品目は定修規模差や稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模差等からPP、PS、EO、SBR、BR、トルエンなどの10品目がプラス。LDPE、塩ビモノマー、MMAモノマー、ANなどの7品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LDPE、HDPE、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数増加に加えて定修規模の縮小や稼働率要因からHDPE、PP、PSでプラスとなった。LDPEは稼働率要因等からマイナスとなった。

前年比では、HDPE、PSは主に稼働率要因、PPは定修規模差と稼働率要因からそれぞれプラスとなった。LDPEは定修規模差と稼働率要因からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、前月に4樹脂揃っての出荷増加が見られたが、さらにLDPE、HDPEではこれを上回る出荷となった。一方、PP、PSは前月の出荷が高めであったことの反動もあり当月はマイナスとなった。

前年比は、前年が工業生産、個人消費で持ち直しの動きがあったものの、汎用樹脂の出荷水準としては、近年では低めであった。本年は、LDPE、HDPE、PPともにこれを上回り、分野別の出荷動向でも、LDPE、HDPEでフィルム分野の出荷増加が続いているほか、PPでは射出成形分野、フィルム分野、押出成形分野の出荷の伸びが見られている。PSは、当月はほとんどの出荷分野で減少した。

ハ) 輸出

前月比は、前月に輸出が減少したLDPEのみがプラス。主要輸出先である中国の生産活動も影響しているものと見られ、足踏み状態からやや減少に転じておりHDPE、PSはマイナスとなった。

前年比は、LDPE、HDPE、PPでマイナス、PSのみがプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、HDPE、PPで減少し、PSは増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LDPEで低下、HDPE、PPは前月並み、PSは幾分か上昇した。在庫水準としては、LDPE、PPはやや低め、HDPE、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		6月末	7月末
LDPE	▲29,200	3.1	2.7
HDPE	▲4,700	3.0	3.0
P P	▲9,600	2.6	2.6
P S	+8,800	1.2	1.4

以上

前月からの修正を*で付記